

登録コード	EKA01900	開講年度	2026				
授業科目	特色ある教育課程の編成と評価					担当教員	伏木 久始 他
英文授業名	Formation and evaluation of a characteristic curriculum					副担当	谷内 祐樹・山口 学・若林 史也
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	履修学年	1年
講義室				授業形態	演習	備考	
信大コンピテンシー	該当						
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】				【授業の達成目標】		
	2 6 E Aカリ, 2 5 E Aカリ, 2 4 E Aカリ						
	教育の専門職としての学識・技能				教育課程の編成原理を理解し特色ある教育課程の特例申請等を作成できる。		
	教育現場の諸課題の背景にある関係構造に気づく視点				地域に関かれた教育課程の要件を理解できる。		
	2 4 E Aカリ						
	子どもの多様なニーズへの対応力				子どもの実態やニーズに応じた教育課程づくりの事例から、子どもを主体とするカリキュラムづくりの手立てを身につける。		
	2 6 E Aカリ, 2 5 E Aカリ, 2 4 E Aカリ						
	既存の枠組みを超える柔軟な発想力と深い省察力				既存の学校教育の慣例を乗り越え、次代を生きる子どもたちにとって求められる教育内容・方法を構想できる。		
(2)授業の概要	・学校や園ごとに地域の実情に応じた特色ある教育課程を編成する意義とそのための基本原理を理解するとともに、教育課程の評価・改善の方法等を理解する。また、各地の特色ある教育課程の実践校へのフィールドワークを通して、それぞれの地域の実態や校内事情に応じた教育課程編成の取組を理解する。 ・授業担当者が企画するフィールドワークから2校以上のツアーに参加し、現場の先生方や仲間との対話を通して参観レポートをまとめる。 ・なお、授業担当者は小学校・中学校・高校での教職経験を有し、現在も学校現場の校内研修をサポートしており、学校現場の実情を踏まえて講義・演習を行う。						
(3)授業計画	第1回：オリエンテーション／国際的に見た日本の教育課程の特色 第2回：教育課程編成の基本原理と学習指導要領 第3回：義務教育学校の教育課程（1）：参観（例 木曽町立福島小学校など） 第4回：義務教育学校の教育課程（2）： 第5回：義務教育学校の教育課程（3）： 第6回：地域に根ざした教育課程の編成（1）：参観（例 大町市立美麻小中学校など） 第7回：地域に根ざした教育課程の編成（2）： 第8回：地域に根ざした教育課程の編成（3）： 第9回：子どもを主語にした教育課程の実践（1）：参観（例：東浦町立緒川小学校など） 第10回：子どもを主語にした教育課程の実践（2）： 第11回：子どもを主語にした教育課程の実践（2）： 第12回：特別な教育課程の編成（1）：例）長野県教育委員会TOCO-TONに挑む 第13回：特別な教育課程の編成（2）：例）教育課程特例申請に挑む 第14回：特別な教育課程の相互評価と「ふりかえり」						
(4)成績評価の方法	・フィールドワークの調査レポート（30％＝15％×3）と最終課題の提出レポート（50％）および対面型演習での参加態度等（20％）を総合的に評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀, 89-80％ 優, 79-70％ 良, 69-60％ 可, 59％以下 不可。						
(5)履修上の注意	・この授業に関する連絡事項等は原則としてeALPSシステムを使って行うため、登録メールアドレスに着信するメール内容を随時確認すること。 ・フィールドワークの日程は、4月当初に紹介するものの他に、受講期間中に随時追加されるので毎週1度は必ずチェックすること。 ・勤務校の事情により特色ある学校への出張機会が与えられた場合はその業務をフィールドワークの実績に充てることができる。 ・なお、フィールドワークに参加した際は、現場の先生方との対話や学生同士の学び合いを重視する。						
(6)質問、相談への対応および連絡先	原則として、事前にメールでアポイントメントをとっていただければ、必要に応じて相談等の時間を確保します。 伏木久始 hfusegi@shinshu-u.ac.jp 矢田直也 yada_naoya@shinshu-u.ac.jp 谷内祐樹 yachi@shinshu-u.ac.jp						
(7)成績評価の基準	レポートの質を手がかりとして以下の基準で評価する。 「卓越している」：教育課程編成の理論とその方法を理解し、フィールドワークに積極的に参加するとともに、地域に応じた教育課程づくりを構想している。 「かなり上である」：教育課程編成の理論とその方法を理解し、地域により異なる教育課程編成の条件を理解している。 「やや上にある」：地域の特色に即した教育課程編成の理論とその方法を理解している。 「水準にある」：地域の特色に応じて、教育課程を編成する要件を理解している。						
(8)事前事後学習の内容について	・eALPS上にアップロードされた授業資料をダウンロードして予習復習を行うこと。 ・課題はオンデマンド型で指示されることもあるので連絡を見落とさないこと。						
【教科書】	・指定しない（毎回の授業で必要なものはすべてeALPSにアップロードする）						
【参考書】	・加藤幸次『教育課程編成論』玉川大学出版部、2011年、2200円（税別） ・森山賢一『教育課程編成論』学文社、2013年、2000円（税別）						

【参考書】	・伏木久始・峯村均『山と湖の小さな町の大きな挑戦』学文社，2017年，2100円（税別） ・奈須正裕・伏木久始『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実を目指して』，北大路書房，2023年，2,300円 ・その他，授業の中で適宜紹介する。
-------	---